

平和になるために

多摩市立和田中学校 2年 いけの あみ 池埜 碧海

私は中学一年生のとき国語の授業で、「おとなになれなかった弟たちに……」という話を読みました。その時に改めて、昔には戦争があって、小さい子まで巻き込まれてしまっていたんだ、と思いました。このことをきっかけに、戦争についてもっと深く知りたいと考えるようになりました。そして、多摩市子ども被爆地派遣事業について知ったとき、このチャンスを逃してはならない、そう思い応募しました。

一日目は平和記念資料館に行き、戦争のときの物、写真、絵を見ました。そのとき私は、今まで感じたことのないほどの恐怖を感じました。特に怖いと思ったのは、やけどで人の皮膚がたれさがっている様子が描いてある絵です。原爆は、私が想像していた以上の威力だと知りました。また、私はそこで、たくさんの外国の方を見かけました。わざわざ外国から、原爆や平和について知りに来てくれているんだと思い、うれしいような、なんともいえない真面目な気持ちになりました。

二日目は ANT-Hiroshima の人と AICJ の人に会いました。朋子さんが笑顔で迎え入れて、優しい口調で話してくださったおかげで私も真剣に話を聞こうと思えました。今回のワークショップ「私+口=平和」を通して私は、平和になってほしい気持ちはみんな一緒だけど、実現のし方は一人一人違うと知ることができました。また、広島では8月6日に登校して、平和について考えるということも知ることができ、感心しました。

ヒロシマ平和の灯のつどいに参加し、たくさんの方がろうそくを持ち、真剣な表情で歩いているのを見ました。私はたくさんの方のろうそくの火を見て、一つ一つに一人一人の平和への思いがあるのだなと感動しました。

三日目は被爆者の清水恵子さんの話を聞きました。爆心地から 80 キロメートルも離れていたのに被害をうけてしまうことを教えていただきました。お母様の胎内にいた弟も被害をうけて、白血病で亡くなってしまったということを知り、改めて原爆が怖いと感じました。また、原爆の子の像をつくるための募金が、一年も経たないうちに集まったという話を聞いて、平和にするために協力したい人がたくさんいるのだなと感心しました。

私は、広島で学んだことを通して、やっぱり平和を実現するには人と協力することが大切だと思いました。今回、原爆の子の像の話を知り、たくさんの方の協力のおかげで私もあの像を見ることができたのだとわかりました。他にも、原爆ドームや被爆樹木もたくさんの方の協力のおかげで今も残っています。

私はこれから、全てを一人でやるのではなく、一人でできないことは人と協力していきたいと思いました。そして、私も一人一人の考えを尊重して、人に協力できるようになりたいです。